

オープンスクールの2日間、5名の子どもたちが体験授業に来ていました。あっという間の2日間でしたが、在籍する12名の子どもたちが授業準備や移動教室などで積極的に声をかけながらサポートする姿が印象的でした。8月上旬に行った前回のオープンスクール、そして今回も参加した子どもたちから帰りの会で発表された感想には、「友だちができて嬉しかった」「みんなで勉強できて楽しかった」というものがたくさんありました。これは在籍する子たちのサポートと、普段の学習の頑張りからくる素晴らしい影響だと思えます。

また9/2(木)より女の子1名が加わりました。9月中にもう1名加わる予定になっており、4月に7名でスタートした3年生がとうとう倍の14名になります。4月からいる7名に加え、編入で入ってくる個性豊かな子たちそれぞれの関わり合うことで、読書への興味が広がったり、深い話し合いができたり、プロジェクト等の幅が広がったりと、3年生がどんどんパワーアップしていきます。今後もどんな成長を見せてくれるのか非常に楽しみです。

プロジェクト～情報収集と専門家へのインタビュー～

第2クォーター後半に入り、プロジェクトも「キャラクター」「瀬戸電」「瀬戸物」「食べ物」「生き物・環境」の5つのグループに分かれ、書籍やインターネットを活用し、読める漢字が限られているので、3年生の学年団や司書の吉賀先生の力を借りながら情報収集を行なっています。

またこれまで瀬戸FCの大橋代表や瀬戸市役所のシティプロモーション課の職員さんにお越しいただき、瀬戸市について色々お話しいただきましたが、今後は瀬戸焼きの学習や体験をしに、せと銀座通り商店街の「coneru」さんに校外学習に行ったり、瀬戸焼きそばについて、こちらもせと銀座通り商店街の「ばんだ家」さんの共同代表の方からお話を伺ったりすることになっています。プロジェクトの授業では、このように専門家の方のお話を聞いたり、実際に体験したりすることを積極的にしながら、子どもたちが実感を伴う生の情報に触れられるようにしていきたいと考えています。

学級活動～言葉遣いとお楽しみ会～

子どもたちにクラスの課題について聞いたところ、「言葉遣い」という意見が出たため、学級活動の時間に話し合いました。今まで聞いたり言われたりした嫌な言葉をホワイトボードに書いて見える化し、いかに嫌な言葉であるかを話し合いました。また今後そういった言葉を減らすため、「落ち着いて考える」「人のことを考える」といった対策についても意見が出ました。これから半年以上を一緒に過ごすクラスで、こういった課題を随時話し合いながら、更にクラスや子どもたち自身が成長できるきっかけにしていこうと考えています。

また同じ時間に、クラス全体でできる楽しい活動についてもアイデアを出し合いました。ボールゲームや縄跳び、教室内でできる活動等、様々なアイデアが出たので、今後全員が登校した際に楽しみたいと思います。

鈴木先生より「図工」～釘打ちトントン～

図工では、「釘打ちトントン」で釘と金槌をつかって木材の立体作品に取り組みました。この單元では、金づちの基本的な使い方や、指先の器用さを養います。またそれだけではなく、木材の形や大きさの違いから、作りたいものを自由に発想し、実現していくまさに造形の楽しさにあふれています。実際の授業でも、子どもたちは自由に発想し、作品を作り上げようとしていました。しかし、それと同時に、まだ釘や金づちを使う機会が少ないゆえに、なかなか思ったことを実現できないもどかしさも、子どもたちは経験したと思います。そのせいで、なかなか自由に発想を広げられなかったり、思うように釘を打てなくて悔しい思いをしたりした子が多くいました。しかし、それが彼らの心に火をつけ、昼休みの時間帯に、希望者は作品を完成させるという結果につながりました。こうした創作への諦めない姿勢は、子どもたちにとってもとても大切なことかと思えます。そのような学びの姿勢を丁寧に支えていけるよう、努めてまいります。